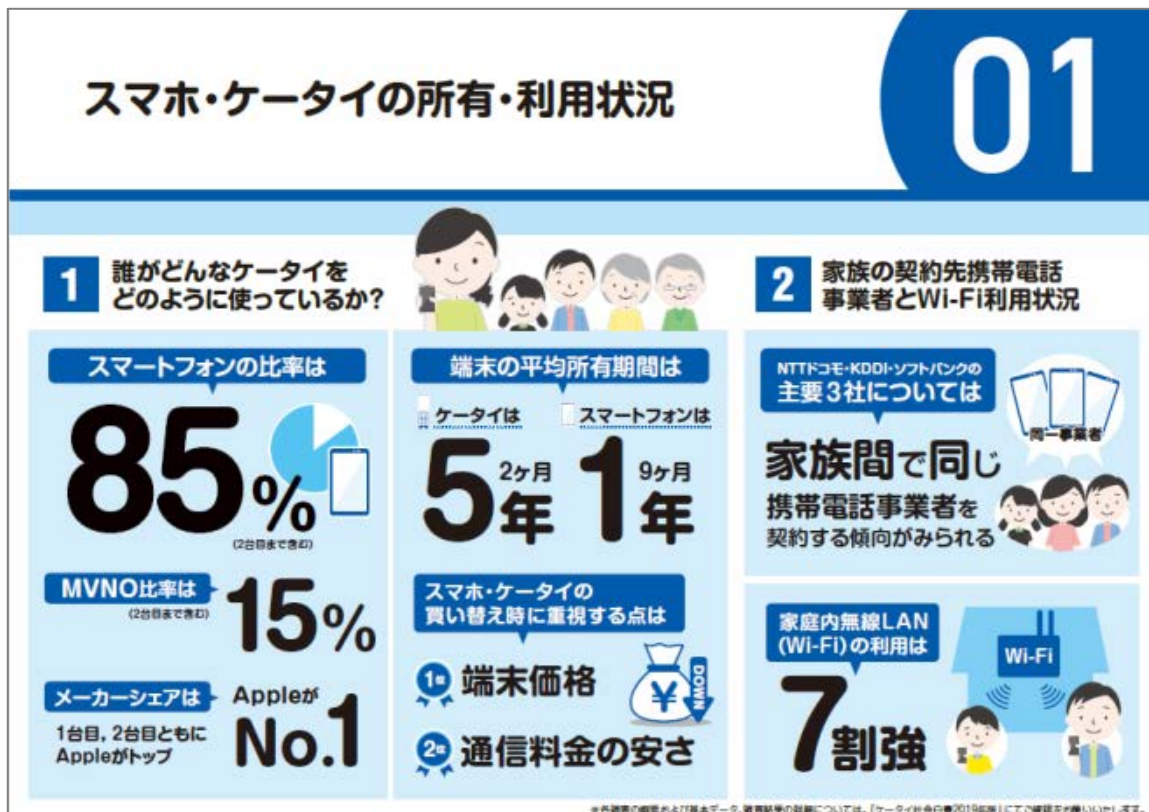


**モバイル社会研究所の定点調査でスマートフォン比率が85%を超え、
70代のスマホ所有がケータイを初めて上回る結果に**
～10年分のモバイルICTの利用動向をまとめた『ケータイ社会白書2019年版』を無償公開～

株式会社NTTドコモの社会科学系の研究所であるモバイル社会研究所[※]は、2010年から2019年までの10年間のスマホ・ケータイなどの使われ方をまとめた『ケータイ社会白書2019年版』（以下、本データブック）をモバイル社会研究所のウェブサイト上で無償公開いたします。

『ケータイ社会白書2019年版』URL: <http://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp19.html>

モバイル社会研究所では、モバイルICTの利用動向の経年変化を把握する基本調査や、ライフスタイルに見られるトピックスについて、2004年の設立時から継続して研究しています。本データブックでは、モバイルICTの10年間の利用動向だけでなく、子どもやシニアの利用実態やスマホマナーなど幅広い内容に関する豊富なデータを掲載しています。また、調査結果を、各章のポイントごとにまとめた要約版も併せて公開いたします。



【要約版イメージ】

今年見られた特徴として、2010年にはわずか4.4%だったスマートフォン比率(2台目まで含む)が85%となりました。特に、子どものスマートフォン利用は中学生になると7~8割に拡大し、スマートフォンを利用する小中学生の8割以上は「何らかの親子間ルールを設定している」という回答が得られました。また、シニアのスマートフォン所有状況では、70代のスマートフォン所有が2019年に初めてケータイ所有を上回る結果となり、スマートフォンの普及がシニアにも進んでいる状況が見られました。幅広い世代において、スマートフォンが生活の一部として根付いてきていることが分かります。

なお、調査は子どもやシニアに限らず多岐にわたります。例えば「歩行中または食事時の利用は30代以下のスマホ・ケータイ所有者の過半数が行っている」など、モバイルICTの使い方についても分析しています。その他、SNSの利用状況、マナーやセキュリティなど、生活者を取り巻くモバイル環境について、多様な調査内容を掲載しています。

今後も、モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析し、世の中に向けて広く研究成果を発信してまいります。

※ モバイル社会研究所は、通信業界の直接の利害を離れ、自由で独立した立場から、モバイルICTのもたらす光と影の両面を広く解明し、その成果を社会に還元することを目的に2004年に設立されました。スマホ・ケータイの使われ方を量的に把握する調査を毎年実施するとともに、モバイルICTの利用による生活者の行動・価値観の変化を解明する研究に取り組んでいます。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先
株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所 企画担当 TEL:03-5156-1087

『ケータイ社会白書2019年版』概要

ケータイ社会白書とは、モバイルICTの利用動向をキャリアを問わず、独自に調査したデータブックです。スマートフォンの黎明期である2010年から2019年までの移り変わりをデータでわかりやすく解説しています。子どもからシニアまで、モバイルICTの利用と意識・行動との関係などを分析するとともに、MVNO・SNS・動画・マナー・防災などの最新のトピックスについても掲載しております。

1. 『ケータイ社会白書2019年版』の主な内容

◆1章: スマホ・ケータイの所有・利用状況

[スマホ・ケータイ所有者のスマートフォン比率が85%超え]

◆2章: スマホ・ケータイコミュニケーション

[10～50代女性の過半数が毎日LINE®を利用]

◆3章: コンテンツとメディア

[ネットショッピング利用率はモバイル端末経由が45.7%に達した]

◆4章: 子どものスマホ・ケータイ利用

[中学生の過半数が週に1回以上親子間でメッセージをやりとり]

◆5章: シニアの生活実態とICT利用

[70代のスマートフォン所有がケータイを初めて上回る]

◆6章: 安心・安全

[歩行中または食事中の利用は30代以下のスマホ・ケータイ所有者の過半数が行っている]

2. 主な調査設計

調査方法 : ウェブ調査

調査時期 : 2019年1月

調査対象 : 全国の15～79歳男女(6,926サンプル)

標本抽出法 : 性年代・都道府県で割り付け

(その他、子どもやシニアに特化した訪問留置調査を実施しています。)

*「LINE」は、LINE株式会社の登録商標です。